夢はBリーグでプレーすること

大倉　颯太選手

北陸学院高校バスケットボール部３年（布水中出身）

館野小学校→布水中学校→北陸学院高校

小学１年生からバスケットボールを始め、中学時代は全国大会で優勝。高校は全国の強豪校からの多数の誘いを断り、男子バスケットボール部が創部３年目（当時）の北陸学院高校に入学した。北陸学院高校では１年次からエースとして活躍し、インターハイベスト８、ウインターカップ３位などの成績を残した。また、第71回国民体育大会では石川県代表として出場し、準優勝に大きく貢献した。

抜群の得点能力を持ちながらチームプレーを優先し、チームを勝利に導く大倉選手は現在のバスケットボール界で高校No.1プレーヤーとの呼び声が高く、その将来が大いに期待されている。４月からは関東の強豪大学に進学し、さらなる成長を目指す大倉選手を直撃取材した。

バスケを始めたきっかけは何でしたか？

―母親がバスケ好きだったことと、通っていた美容院の美容師さんがバスケのコーチをしていたことです。

中学で全国制覇を成し遂げ、高校進学時は全国の強豪校から誘いがあったと思いますが、なぜ創部間もない北陸学院高校を選んだのですか？

―地元の石川県から全国優勝したいという強い思いがあり、中でも北陸学院高校は強くなれる環境がそろっていると感じたからです。

北陸学院高校での３年間を過ごし、自身の中で変化はありましたか？

―１年次は上級生もいたので「挑戦」することをテーマにプレーしていました。学年が上がるにつれ責任感やプレッシャーも増し、我慢強さが身に付いたと感じます。また、練習や試合でリーダーシップを発揮できるようにもなりました。

持ち味を教えてください。

―自分の持ち味は勝負どころで点が取れることだと思います。相手がここで点を取られたくない、と思っている場面で確実に得点できるよう意識しています。

バスケをしていて一番楽しい瞬間はいつですか？

―やっぱり試合に勝ったり、大会で優勝した瞬間ですね。

どのような心境で試合に臨んでいますか？

―試合には全て勝ちたいと思っていますし、全ての試合にベストな状態で臨めるように調整しています。悪い試合をすることもありますが、それも次の試合をいい試合にするための糧にしようと心がけています。

高校２年次には海外のキャンプに招待されたそうですね。

―はい。誰もが経験できることではないので、ステップアップする絶好の機会だと思って挑戦しました。海外の同年代の選手とのプレーは刺激になりましたし、ＮＢＡプレーヤーのステフィン・カリー選手と同じコートでプレーできたことは貴重な経験です。

バスケＩＱ（戦術理解・状況把握能力）が非常に高いと言われる大倉選手ですが、どのようにしてＩＱが磨かれたと思いますか？

―ミニバス時代から常に考えることを意識してきました。Ｂリーグ（日本の男子プロバスケットボールリーグ）やＮＢＡの映像を見て研究するのも好きですし、そういったことが原因だと思います。

高校ナンバーワンプレーヤーとの呼び声が高い大倉選手ですが、そのように言われることに対してどう感じていますか？

―注目されないよりは注目される方がいいと思いますし、周囲の期待に見合ったプレーをするというプレッシャーを、力に変えることができていると思います。

４月からは大学でバスケをするとお聞きしています。新しい挑戦についての思いを聞かせてください。

―高校よりレベルも上がった環境でプレーするのが楽しみです。高校では果たせなかった日本一という目標を達成したいです。

最後に、バスケ選手としての将来的な目標を教えてください。

―大学でさらに自分のバスケに磨きをかけ、将来はＢリーグでプレーしてバスケをもっと盛んなスポーツにしたいです。また、いつかはこれまで育った野々市市や石川県に恩返ししたいと思っています。

広報写真アルバム
2次元バーコード

北陸学院高校・濱屋コーチに聞きました
大倉選手はこんな選手！！

大倉選手の長所は厳しい練習にも手を抜くことなく取り組み、自分を追い込むことができる点です。また、知識と自信にあふれ、チームメートにも適切に助言するので、コーチの役割も果たしてくれています。大学で環境が変わっても彼ならすぐに適応できると思いますし、どんどん自分を出してプレーし、いずれは日の丸を背負う選手になってほしいと願っています。